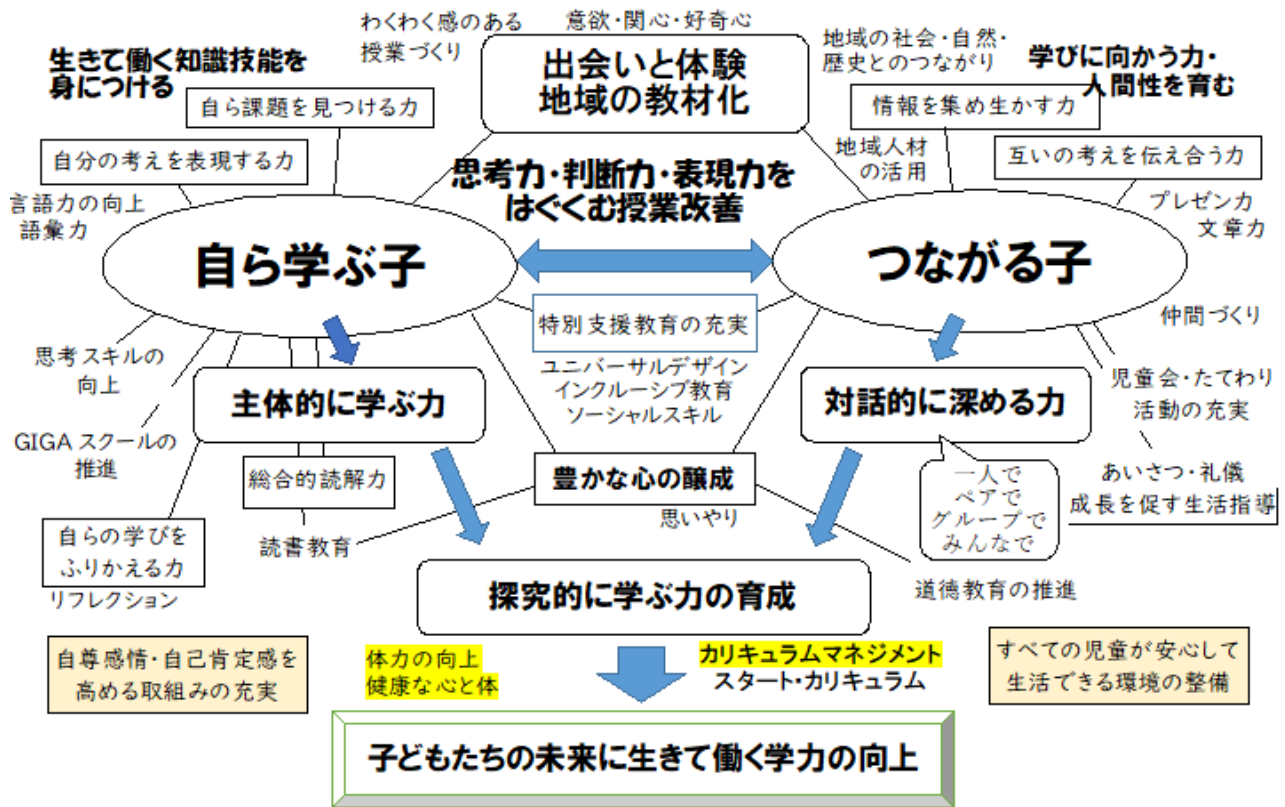


令和4年度5年度 黒鳥小学校 教育計画



《教育目標》

- ・自ら考え行動する子
- ・思いやりの心でみんなと助け合う子
- ・体をよくきたえいつも元気な子

《学校教育重点目標》

自ら学ぶ子 つながる子

[学校経営の重点]

- ・思考力判断力表現力を育む授業改善

単元のまとまりを意識した授業改善を通して、主体的に学びあう学習者を育成し、思考力・判断力・表現力を育む。

- ・学力向上に向けた取り組みの充実

豊かな出会いと体験を通して自ら課題を見つけ自ら考え問題解決を図る力を育む。地域の豊かな学習材(人・社会・自然)とのつながりを重視し、地域の教材化に積極的に取り組むことで子どもたちの未来に生きて働く学力(資質能力)の向上を図る。

- ・仲間とつながる取り組みの充実

仲間とのつながりや異学年とのつながりを深めたり広げたりする取り組みを意図的・計画的に推進することで、学びを深めあい、一人ひとりを認め合う心を育み、ともに高め合える集団づくりをめざす。

- ・豊かな心の醸成

学習活動を通して自尊感情を高めるとともに、学校教育全体の中で道徳性を養い、自己を見つめ、物事を多面的多角的に考え、自己の生き方について考えを深め、豊かな心の醸成を図る。

〈具体的方策〉

- ◎わかる授業づくりと学力の定着
- ◎一人ひとりの違いを認め合い、仲間とともに育つ集団づくり
- ◎自尊感情、自己肯定感を高める取り組みの充実
- ◎自ら考え表現できる取り組みの充実
- ◎健康増進・体力向上に対する意識の向上
- ◎正確なアセスメントに基づく個別の支援の充実
- ◎9年間を見通した教育活動の展開
- ◎学びに向かう姿勢を支える環境の充実

【学習指導】

- ◇基礎的・基本的事項習得のための指導の徹底。
- ◇「探求のある学び」「自らの問いのある学び」「子ども同士がつながる学び」のための教材研究・指導技術の向上に努める。
- ◇一人の学びと集団の学びが有機的に関係する学習活動の中で、思いや考えを積極的に伝えあう授業展開を工夫する。
- ◇交換授業や教科/単元担任制等の指導方法の工夫についても研究・実践を進める。
- ◇朝の15分(8:30~8:45)の活用
火・木を朝学習(基礎基本の徹底) 水曜日を朝の読書活動(読書教育)
金曜日を黒鳥ジャンプ(全国学力・学習状況調査問題・大阪府チャレンジテストなどの問題への取り組み)
- ◇昼の5分(13:40~13:45)の活用
算数の基礎的内容の定着

【道徳教育】

- ◇特別の教科、道徳の学習展開と評価について、さらに研究と充実をはかる。
- ◇人間尊重の精神を育て、各教科・特別活動など全教育活動を通じて豊かな道徳的心情を育成する。
- ◇一人ひとりの自尊感情を育成し、自分の「よさ」を理解して生きていくことの大切さを自覚させると同時に、他者を思いやる豊かな心を育成する。
- ◇自然や美しいものに感動する心を育成する。
- ◇ローテーション授業の実施推進

【特別活動】

- ◇計画的な集団活動を通じて、望ましい人間関係のあり方について実践的に考えさせる。
- ◇心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
- ◇たてわり活動の一層の充実を図り、学年を越えた児童のふれあいを大切にされた指導を展開する。
- ◇一人ひとりが集団の一員としての自覚を高め、互いに協力し、自主的に考え、行動できる力を養う。

【生活科・総合的な学習】

- ◇「生活科・総合的な学習の時間」の目標を明確にし、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことをとおして、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質能力を育成する。
- ◇総合的な学習の時間では、地域の教材化をねらい、学習計画を工夫し、可能な限り体験的かつ実践的な学習を取り入れた授業に取り組む。
- ◇学校全体でスタートカリキュラムに取り組み、就学前の学びを活かし、就学前教育施設との連携を深め、主体的・対話的に学ぶ学習者を育成する。

【国際理解教育・英語教育】

- ◇諸外国についての理解を深める。
- ◇英語学習については、学年に応じた内容を確実に学習できるよう計画するとともに、全教員が児童を指導・評価する。
- ◇ALT等を効果的に活用することで、児童に英語や外国の文化にふれる機会を増やし、英語を使ったコミュニケーションに積極的に関わる児童を育てる。

【学校図書館教育】

- ◇課題や目的に応じて、資料を適切に活用し、主体的に問題を解決できる能力を養う。
- ◇幅広い読書活動を通して、想像力を培い、興味関心をもつ気持ちや豊かな心を育む。

【生徒指導】

- ◇学校生活の基本的なルールを明確にし、全教職員の共通理解のもと指導にあたる。
- ◇児童一人ひとりのよさを伸ばし、自主的・意欲的な生活態度を育成する。
- ◇基本的な生活習慣定着への指導を継続的に行う。
- ◇児童理解を深め、児童一人ひとりの内面に触れる指導を行い、自尊感情の醸成に努める。
- ◇一人ひとりの児童に対する共通理解を深め、スクールカウンセラー等の活用を含めた教育相談体制の充実を図る。
- ◇保護者・地域との連携、保幼小中との連携を一層深める。

【保健・安全指導】

- ◇学校教育活動全体を通じて体力の増進を図る。
- ◇自らの健康や安全に関心を持ち、自主的に健康・安全管理のできる児童を育成する。
- ◇常に「危機管理意識」を全教職員がもち、安全管理予防教育に努める。

【人権教育】

- ◇人権尊重の基盤に立ち、全教育活動を通じて人権教育を推進する。
- ◇差別やいじめに敏感で、「差別をしない・許さない・認めない」鋭い人権感覚を身につけた児童の育成に努める。
- ◇男女共生教育を推進し、セクシャルハラスメント・児童虐待等の防止および性的マイノリティへの理解に努める。
- ◇教職員自らも鋭い人権感覚を持ち、豊かな感性を身につけるように努める。

【支援教育】

- ◇児童の個性を尊重し、個性を伸ばす指導の充実を図る。
- ◇すべての教職員の支援教育について理解を深め、指導力の向上に努める。
- ◇障がい有する児童に対する理解と認識を深め、共に学び、共に育ち、共に生きる、「共生」のあり方を理解し、実践する。
- ◇校内外での交流の場を多岐にわたり設定し、ふれあい活動を重視する。
- ◇社会的自立をめざし、児童の実態に応じた個別の指導計画を立て、発達を促す教育方法の改善に努める。
- ◇障がい有する児童の保護者との連携を密にし、支援教育についての共通理解を深め、協力体制を充実する。

【情報教育】

- ◇GIGA スクール構想に基づき、学習活動を充実させるためのコンピュータ活用について実践を進める。
- ◇児童がコンピュータを活用する際には、プログラミングを含む、活用技能の習得・定着が図れるように指導を工夫する。
- ◇教員の指導力向上のために研修体制を充実させる。